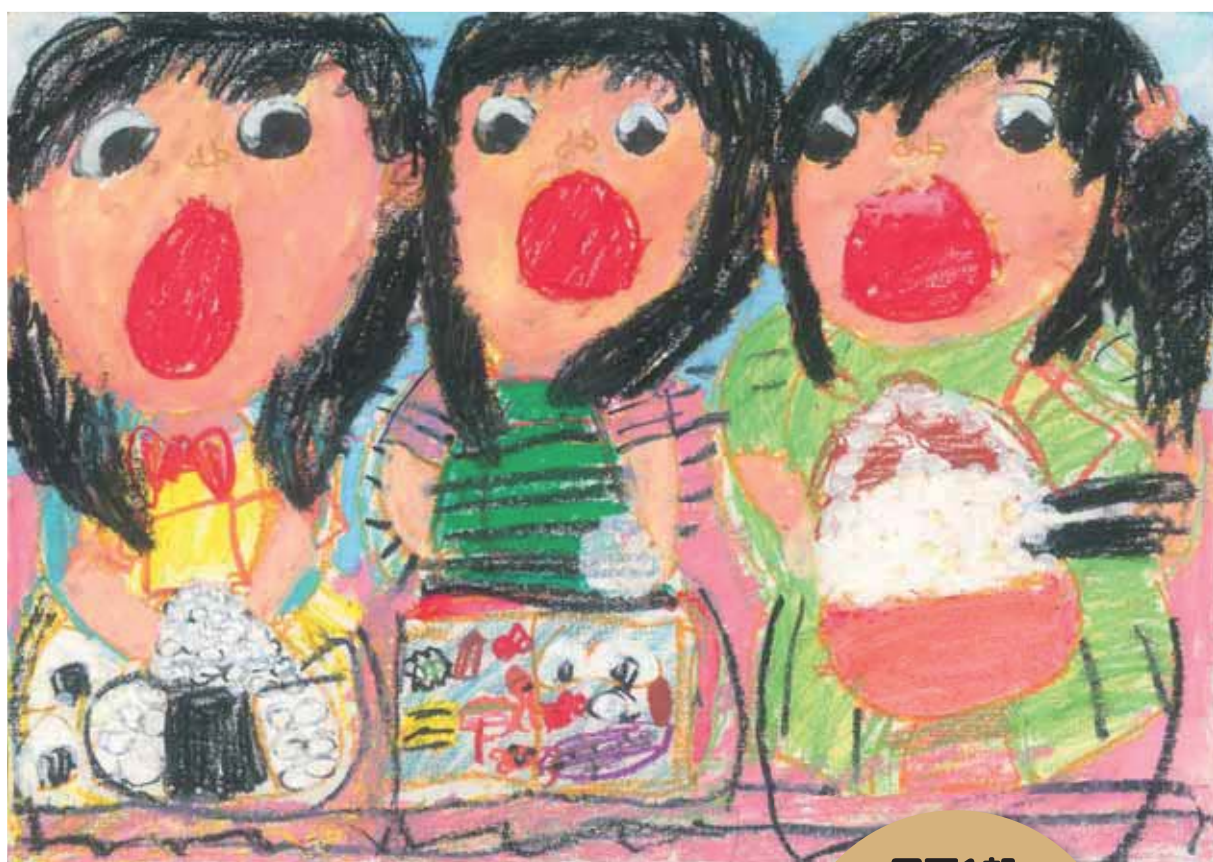


第39回

# ごはん・お米とわたし

作文・図画コンクール入賞作品集



図画1部

●山形県知事賞●

「おいしそういただきます」

尾花沢市立福原小学校1年

三嶋 優さん



平成27年2月

山形県農業協同組合中央会・山形県農協農政対策本部





◆ごあいさつ

山形県農業協同組合中央会会長 長 澤 豊…………… 1

◆作文・図画コンクール入賞一覧…………… 2

◆図画部門

図画 1 部／山形県知事賞  
山形県農業協同組合中央会会長賞…………… 3

図画 2 部／山形県知事賞  
山形県農業協同組合中央会会長賞…………… 4

◆作文部門

農林水産大臣賞 …………… 5

作文 1 部／全国優秀賞・山形県知事賞…………… 6  
山形県農業協同組合中央会会長賞…………… 7

作文 2 部／全国優秀賞・山形県知事賞 …………… 8  
山形県農業協同組合中央会会長賞…………… 9

作文 3 部／全国優秀賞・山形県知事賞…………… 11  
山形県農業協同組合中央会会長賞…………… 13

◆審査講評…………… 15

作文部門審査講評 山形市立第五小学校校長 田中 淳

図画部門審査講評 山形市立南沼原小学校校長 田中 利幸

◆第28回～第39回 入賞一覧…………… 17

◆審査経過の概要…………… 19



## ごあいさつ

## 山形県農業協同組合中央会

会長 長澤 豊

第三十九回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールに応募いただいた児童・生徒の皆さんに、心からお礼申し上げます。また、入賞された皆さん、誠におめでとうござります。心からお祝い申し上げます。

私たちJ Aグループは、次代を担う小・中学生の皆さんに、古くから日本の食卓と国土を育んできた農業に親しんでもらい、ごはん食がいかに優れているかを理解していただくため、昭和五十一年度からこのコンクールを実施しており、今年度で三十九回目を迎えます。

今回は、県内の小・中学校から作文三七九点、図画七五四点もの力作を応募いただき、全国コンクールに推薦するとともに、県コンクールにおいては、山形県知事賞、山形県農業協同組合中央会会長賞、優秀賞、学校奨励賞を選考いたしました。全国コンクールでは、作文部門二部で農林水産大臣賞を、作文部門の各都府道支庁で優秀賞を受賞する成績を取めました。これもご指導いただきました学校の先生方をはじめ、ご父兄の皆様、審査委員の先生方、そして山形県ならびに各J Aのご支援・ご理解の賜と心から感謝申し上げます。

今回応募いただいた作品は、家族や仲間と農作業する様子、農業や食を通じての地域や家族とのつながり、ごはんを食べる喜びをいきいきと表現したものなど、個性豊かですばらしいものばかりでした。ごはん食や農業の果たす役割の大きさやありがたさが素直に表現されておりました。心に響く作品が多く、日本人の生活とお米は、深く結びついていると改めて実感したところです。どうか皆さん、普段何気なくごはんを食べることができるとは、忘れないでください。お米を作る苦労や努力を感じ、感謝の気持ちを大切にしてください。そして、自然や生き物すべての命を大切にすることを、いつまでも持ち続けてください。

さて、日本は、世界中の国々と貿易をおこなない、食料の多くを外国から輸入しています。食料自給率は三十九%と、先進国の中では最低の水準にあります。世界的には、人口の増加により食料が足りなくなることが心配されており、それぞれの国が食料自給率を向上させることが大事なことで考えています。

今、太平洋を囲む地域の国々が、関税をなくし自由な貿易をすることなどについて話し合いがなされ、合意できるか大詰めをむかえているところです。関税がなくなれば、広大な農地をもつ国々の輸入農産物により、田畑の荒廃、食料自給率低下などの農業への影響だけでなく、国民の生活にも大変な影響を与えることとなります。J Aグループは、わが国の食料・農業・農村を守るための運動に、消費者・商業・医療など各分野の団体と一緒に取り組んでいます。

また、私たちJ Aグループは、消費者の皆さんと一緒にこれからの日本人にとって「よい食」とは何かを考え行動する「みんなのよい食プロジェクト」に取り組んでいます。日本人の主食である米をはじめとした日本型食生活の推進、地場産をはじめとした国産農畜産物の消費拡大、小・中学校給食における安全・安心な農畜産物の提供や食農教育の推進に向けた取り組みに、今後一層努力してまいります。

平成二十二年にデビューした「つや姫」も、今年で六年目を迎えます。県内のみならず、全国から注目を集めるお米となりました。私たちJ Aグループは、これからもおいしいごはん・お米に、注目していただけるよう努力してまいりますので、応援をよろしくお願いいたします。

最後に、皆様のご協力により、当コンクールをますます発展させていただきますようお願い申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。

# 第39回「ごはん・お米とわたし」

## 作文・図画コンクール入賞一覧

(敬称略)

### 全国審査における入賞者

#### ○農林水産大臣賞

(作文 2 部) 松浦 蒼一郎 庄内町立余目第一小学校 4 年

#### ○全国優秀賞

(作文 1 部) 門脇 陽希 大蔵村立大蔵小学校 1 年 (作文 2 部) 後藤 芽衣 河北町立西里小学校 6 年

(作文 3 部) 森村 春輝 山形市立第三中学校 2 年

### 山形県審査における入賞者

#### 作文部門

##### ●1部 (小1～3年)

山形県知事賞 門脇 陽希 大蔵村立大蔵小学校 1 年  
山形県農協中央会会長賞 軽部 翔真 寒河江市立西根小学校 2 年  
優 秀 賞 後藤 天星 最上町立大堀小学校 1 年  
早坂 颯真 東根市立大森小学校 2 年  
加藤 響 大蔵村立大蔵小学校 2 年  
後藤 有璃 高島町立和田小学校 2 年  
伊藤 准輝亜 高島町立屋代小学校 3 年

##### ●2部 (小4～6年)

山形県知事賞 後藤 芽衣 河北町立西里小学校 6 年  
山形県農協中央会会長賞 青木 実央 新庄市立昭和小学校 6 年  
優 秀 賞 小澤 爽太 白鷹町立蚕桑小学校 4 年  
五十嵐 広大 鶴岡市立福栄小学校 4 年  
丸山 美優 鶴岡市立羽黒第二小学校 4 年  
打田 ゆらら 白鷹町立鮎貝小学校 5 年  
荒木 怜 最上町立赤倉小学校 6 年

##### ●3部 (中1～3年)

山形県知事賞 森村 春輝 山形市立第三中学校 2 年  
山形県農協中央会会長賞 留守 めぐみ 米沢市立第一中学校 3 年  
優 秀 賞 八巻 怜花 米沢市立第四中学校 1 年  
山口 雅乃 鶴岡市立朝日中学校 1 年  
今野 佑香 米沢市立第二中学校 2 年  
渋江 初菜 山形市立第一中学校 3 年  
井上 砂城 鶴岡市立朝日中学校 3 年

##### ●学校奨励賞

大蔵村立大蔵小学校  
山形市立第三中学校

#### 図画部門

##### ●1部 (小1～3年)

山形県知事賞 三嶋 優 尾花沢市立福原小学校 1 年  
山形県農協中央会会長賞 鈴木 佑奈 大石町立大石田小学校 2 年  
優 秀 賞 星川 葵 尾花沢市立尾花沢小学校 1 年  
原田 結奈 尾花沢市立福原小学校 1 年  
星川 椿 尾花沢市立福原小学校 1 年  
矢作 結苺 尾花沢市立福原小学校 1 年  
富樫 智花 山形大学附属小学校 2 年

##### ●2部 (小4～6年)

山形県知事賞 佐藤 ひより 山形市立金井小学校 5 年  
山形県農協中央会会長賞 遠藤 陸冬 尾花沢市立尾花沢小学校 6 年  
優 秀 賞 小野 慈和 尾花沢市立尾花沢小学校 4 年  
今野 泰成 尾花沢市立尾花沢小学校 5 年  
五十嵐 雄汰 鶴岡市立京田小学校 5 年  
佐藤 夏都 鶴岡市立京田小学校 5 年  
菅藤 心菜 尾花沢市立宮沢小学校 6 年

##### ●3部 (中1～3年)

該当はありません

##### ●学校奨励賞

尾花沢市立福原小学校



●山形県知事賞●

「おいしそういただきます」

尾花沢市立福原小学校一年

三嶋 優



●山形県農業協同組合中央会会長賞●

「じいじが作ったおいしいお米」

大石田町立大石田小学校二年

鈴木 佑奈



●山形県知事賞●

「協力の田植え」

山形市立金井小学校五年

佐藤 ひより



●山形県農業協同組合中央会会長賞●

「親子田植え」

尾花沢市立尾花沢小学校六年

遠藤 陸冬





## 祖父に学ぶ米作り

庄内町立余目第一小学校四年

松浦 蒼一郎

ぼくの家は農家です。祖父と父が米作りをしています。祖父と父が作る米はとてもおいしくてぼくの自慢です。ぼくも春に種まきを手伝いました。二十キログラムの種もみが入ったふくろはとても重くて、

「よつこらしよ。」

と言って持ち上げて機械に入れるのに、祖父は軽々と持ち上げて機械に入れます。

祖父は力だけでなく、米作りの様々な知識も豊富です。小さいとき、祖父と父が、

「地面の温度がまだ十二度だな。」

と話しているのを聞いたことがあります。小さいぼくは何のことかわかりませんが、今年の夏に読んだ本の中に、『田んぼの苗を植えるには、地表面の温度が十三度以上になる五月の連休から』と書いてありました。父と祖父は田植えの時期の相談をしていたのでした。祖父は苗を育てる時、春の気温の低い時期はハウスで苗を守るが、守りすぎても弱い苗になってしまう。だから、苗本来の力を信じて強い苗を育てることが大切だと教えてくれました。田植えをする時も祖父のたくさんの知恵と工夫があると思えました。

稲を田んぼで育てていることにもわけがありました。それは稲が水の好きな植物で、田んぼの水には稲を育てるための養分がたくさん溶け込んでいたからでした。ぼくの家の田んぼも北楯大堰と最上川の栄養がいっぱい入った水で稲が育っていることを祖父に教えてもらいました。祖父は田植えの後には朝夕毎日のように田んぼの見回りをし、田の水の調節をしています。それは、寒さや大雨、病気から稲を守る仕事だったと気づきました。こんなに一生けん命に世話をしているも、台風などで稲がだめになったときは涙が出るほどくやしいと話してくれました。だから、祖父は天気にも病気にも強いじょうぶな稲を作るために、稲の成長状態に合わせて適切な量と種類の肥料をあてるように工夫をしているそうです。長年の経験による判断が必要になるそうです。祖父は農薬を使わずに作る有機米作りに挑戦しています。農薬を使わないので、虫がついたり病気になったりして豊作になる可能性はほとんどありません。それでも有機米作りに挑戦する祖父はぼくの自慢です。

祖父に話を聞いて、米作りは決して簡単ではなく、頭と体を使う大変な仕事だということがわかりました。米を作る農家にとって稲を育てるといことは、失敗の許されない真剣勝負です。だから、今日も祖父と父は一生けん命汗を流して、秋にたくさんがやく米を実らせるためにがんばっています。そんな祖父と父をぼくはかっこいいと思います。

もうすぐぼくの家でも稲刈りが始まります。田んぼ一面に稲穂が広がっています。今年もぼくも稲刈りに挑戦してみようと思います。そして祖父からもっとたくさん稲の育て方や秘密を教えてくださいたいです。

●全国優秀賞・山形県知事賞●

じじのおこめはさくらんぼ

大蔵村立大蔵小学校一年

門脇 陽希

八がつ二かよるは、ほたるびコンサートでした。おじいちゃんのだなだが、ぴかぴかきれいにひかっています。

ぼくは、じじのおこめがだいすきです。じじのおこめは、「さとのゆき」というなまえがついています。ゆきのようにしろくて、もちもちしています。

じじに、  
「なんで、こんなにおいしいの。」

と、きいたら、じじは、  
「はやまから、おいしいみずがたなだにながれてくるからだ。」

と、おしえてくれました。ママは、たなだは、あさがさむくて、ひるがあついから、おいしいおこめができるんだといっていました。みずやおんどが、おいしいおこめをつくっているなんて、びっくりしました。

ぼくは、たねまきやたうえ、いねかりのおてつだいをします。「ぼんすきなおてつだいは、いねかりです。じじに、コンバインにのせてもらいます。じじといっしょにするレバーそうさが、とてもたのしいです。つぎつぎと、いねが、かりとられていきます。したのだなだから、だんだんうえのほうにかつていきます。すみっこは、かまでかります。ばあちゃんが、「てをきらないように、うえのほうをもって、いつきに、きるんだよ。」

と、おしえてくれたので、そのとおりにやったら、できました。

いっぱいみのつたいねは、とてもおもしろかったです。ぼくは、一ぼしか、あるけませんでした。ばあちゃんには、いっぱいはこべるので、ちからもちだとおもいました。

いっぱいおてつだいたあとは、ばあちゃんとママがつくった、おいしいおにぎりをたべます。おなかがあつて、二つもたべました。ぼくのすきなバナナもあつて、うれしかったです。かぞくみんなでたべるごはんは、さいこうです。

じじのおこめを、いっぱいたべて、おおきくなりたいです。



## ●山形県農業協同組合中央会会長賞●

### ぼくの田んぼ

寒河江市立西根小学校二年

軽部 翔真

五月のある日、おじいちゃんのぶどう畑に行つたとき、入口の前に、おこめのなえがありました。ひつくりかえつておいてありました。まわりの田んぼを見て、ぼくはおこめをじ分でそだててみたくなりました。たまたまあった小さな赤いジョウロに、まだはっぱがみどり色をしたなえをとつて入れました。そして、おじいちゃんとおばあちゃんに見せて、

「ぼく、じ分でおこめをそだててみたい。」

と言いました。おじいちゃんは、

「じゃあ、田んぼつくつてあげる。」

と言いました。

じてん車でうちにかえつてまっついていると、おじいちゃんが車でかえつてきて、はっぱうすチロールに土を入れてきてくれました。水を入れて、なえをう

えました。ぼくの田んぼのできあがりです。大きくなって、おこめがなるといいなあと思いました。

つぎの日から、おこめをそだてるのをがんばるぞと思いました。毎日学校からかえると、ベランダにおいてあるぼくの田んぼを見て、水がすくなくときは水やりをしました。何日かたつと、五センチメートルくらい大きくなっていました。一か月くらいたつたら、すごく大きくなっていました。うれしかったです。

夏休みになると、白い花がさきました。おこめの花は三、四ミリメートルくらいでした。花がさきおわると、みどり色のおこめがなりました。くきが八十一センチメートルもありました。おこめのほは十七センチメートルありました。ほについているおこめを数えたら、八十五つありました。一本のほで一口分のおこめができるそうです。一本からこんなにとれるんだと、おどろきました。

おこめがちゃ色になったら、おじいちゃんに白くしてもらって、たいてたべたいです。らい年は、田んぼをもうすこし大きくしてみんなにごちそうしたいです。

●全国優秀賞・山形県知事賞●

伝えよう、米作りの行事

河北町立西里小学校六年

後藤 芽衣

「わあ、きれい。去年より大きい。」  
みんなで作っただんご木飾りを遠くからながめたら、まるで満開の桜の花のようだった。

一月、私の住んでいる中島地区では、子ども会や地区の人や老人クラブの人達でだんご木飾りを作る。もう十五年も前から、公民館で小正月の行事をやっているようだ。私はおじいちゃんから、

「昔は、どこの家でもだんご木を飾ったものだ。年祝や赤ちゃんが生まれたなどがあると一段と大きく飾ったんだ。幸せと豊作を願って作ったんだな。」

と教えてもらった。だんご木に意味があるなんて知らなかった。

だんご木を作った後は、雪中田植えがある。外

に出て、雪の中にわらと豆がらをたばね、苗に見たてたものを植える。この時、じいちゃんがみものをつけ、かきをかぶって昔のかつこうをする。

雪中田植えは、米や豆の豊作を祈る行事だ。田植えをする時、「あきの方」に向いて祈るのだそうだ。「あき」とは、その年の福の神がいるところだ。昔の人は、神様に豊作を祈っていたのだ。つまり、米や豆を手に入れることは、大変なことだったのだ。

私は、五年生の時、田植えと稲刈りの体験学習をした。昔から続く米作りを子ども達に体験させたいという思いで、公民館の運営委員の人がお世話をしてくれた。

田植えが終わった後に、「こびる」というものをごちそうになった。昔は、田植えの間におなかですくと、田んぼの横で、ご飯のようなものを食べたのだそうだ。私達は、運営委員の人が作ってくれたみそときなこゆかりのおにぎりをごちそうになった。私の好きだからあげもついていた。ほのおの葉にくるんだ「たなごめ」というおかしも食べた。ほんのりあまくて、田植えの疲れもとれるようだった。昔は、家族や親せきの人など大勢で



田植えをして、みんなでこうやって「こびる」を食べていたのだろうかと思った。

私の家の田んぼでは、今、機械を使って田植えをしているが、機械が入らない所は、じいちゃんとかばあちゃんが手作業で一つ一つ植えている。昔は、全部手で植えていたかと思うと、昔の人はすごいな、大変だなと思う。みんなで力を合わせてやったから米作りができたのだろう。

公民館で、老人クラブの人から教えてもらい、しめ飾り作りの体験もした。米作りの大変さだけでなく、楽しさも学ぶことができた。

お米は、毎日食べるものだ。だから、お米の事を知るのは、とても大切なことだ。これから、小正月行事や公民館活動がずっと続いて、昔の米作りが伝わってほしいと思う。



## ●山形県農業協同組合中央会会長賞●

### 米づくりを体験して

新庄市立昭和小学校六年

青木 実央

今年、わたしたち五・六年生は、永作もちというもち米づくりに挑戦しました。これは、山形県新庄市でたった一人しか育てていない貴重なもち米です。田んぼの先生石井さんがその貴重なもち米の種もみを譲り受け、「やってみないか?」と提案してくださったことで、わたしたちは、石井さんに次いで三番目の永作もちを育てる人になったのです。

五年生のときに米づくりを体験しているわたしたちにとって、今まであまり人が育てたことのないもち米を作るということは、ワクワク・ドキドキする体験です。学校前の花だんを田んぼに変えて、芽出しからもちつきまで、全てをできるだけ自分たちの手でやってみようということ、無農薬の米づくりを始めました。しかし、今年で

この昭和小学校は閉校になってしまいました。だから、今年がラストの米づくりになるのです。わたしは、いっしょうけんめい育てて、みんなでおいしいおもちを食べたいと思いました。

まず最初は、芽出しをした種もみを苗箱に入れます。貴重な米なので、ていねいに、ひと粒ひと粒気持ちを入れて入れていきました。そして、毎日交代で水やりをしました。すると、芽が出てどんどん大きくなっていきました。その成長を見ていると、とってもうれしくなりました。

次に二つ目、田起こしと代かきです。くわでザックザクとみぞを作っていました。

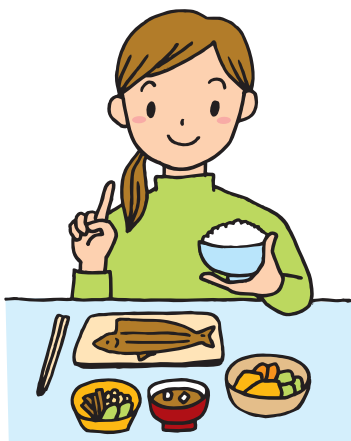
「何だか昭和開拓みたいだね。」

と言って、みんなで「昭和郷の歌」を歌いながらがんばりました。もともと昭和は荒地で、わたしたちの先祖がこの地を開拓したということを忘れないようにと作られた曲です。わたしは、すぐに疲れて次の人と交代したので、昔の人は、これとずっと続けていたなんてすごいなあと思いました。

次に三つ目、いよいよ田植えです。いっぱい太陽の光を浴びてすくすく育った永作もちの苗を、

わたしたちがいっしょうけんめいくわで起こした土に植えていきます。去年もやりましたが、土に素足で入るのは、やつぱりなれません。水が生ぬるくて、土がグニユツとした感触に、思わずゾワツとしてしまいます。それに、この中を歩いて苗を植えるのは、足がぬかってなかなか進めないのです。苦労しながらも何とか終了。田植えの後の冷たいお茶のおいしかったこと。そして今、水の管理をしながら、すくすくと育つ稲を観察しています。

これから、稲刈りなどの作業があります。最後においしいおもちが食べられるようにみんなでいっしょうけんめい育てていきたいです。芽出しからもちつきまで、一から体験できるこの活動を通して、食べ物を作る大変さや食べ物の大切さを改めて感じました。これから、お米を始めとする食べ物を大切にしていきたいと思っています。





## ●全国優秀賞・山形県知事賞●

### ごはんの力

山形市立第三中学校二年

森村 春輝

震災が起きたときのことを思い出すと、僕の頭の中に、いつも土鍋のごはんが浮かんでくる。激しい震れがとても怖かったこと、雪が降る中、不安で不安でたまらなく家に向かったこと、停電で家の中も町中も真っ暗だったこと、家族みんなの一部屋に集まって、防寒具を着たまま布団に入り、寒さから身を守りすぐ逃げられるようにと考えながら夜を過ごした事を、今でもはつきり覚えている。でも、家族みんなが無事で一緒にいられたことがとてもありがたかった。

停電でいつも通りの生活はとうてい無理だ。食事をどうするか家族で話し合い、卓上コンロを使ってごはんを炊くことになった。キャンプで一度は経験したことはあったが、本

当にうまくいくのか不安だった。母が土鍋にといだ米を入れて、コンロに火を点けた。コンロの周りだけがぽつと明るくてあたたかくて、ぼくはずっと見ていた。母が「そろそろいいんじゃないかな。」と、鍋のふたをあける。すると、ほわっとした湯気といっしょに、ごはんのいい香りがたちのぼり、心も体も温かくなつたのを覚えていく。

今年夏休みに入る前、先生から震災のときのある中学生の話聞いた。津波の被害にあつて、避難した体育館であの夜を送つたという。その日は何も食べるものがなく、寒い不安な夜をすごした。初めて食べ物が届いたのは、次の日の午後だったそうだ。何もついていないおにぎりが一個。その人は、なかなかそれを口にできずに体育館にじっとしていたら、見知らぬおじいさんから、

「食べる。食べると元気になるから。」

と言われた。そうしたら、涙が止まらなくなつて、泣きながらおにぎりを食べたという。

ごはんを食べる。毎日のあたりまえのこと

なのに、それはものすごく大きなものをぼくたちに与えてくれることなのだ、改めて思った。あの不安な夜をほつとさせてくれたごはん。震災から一歩踏みだす元気を与えてくれるごはん。

先日、思いついてあの土鍋を取り出した。ぼくがその鍋でごはんを炊いて朝ごはんを作ろうと思ったからだ。家族の喜ぶ顔が見たくて、プクプクツツという鍋の音を聞きながら、ごはんが炊けるのを楽しみに待っていた。おいしいごはんができるのを想像していたら、部屋にこげたにおいが漂った。

「しまった！」

慌てて火を止めて、ふたを取ってみたい気持ちを感じるところを、しばらく待った。できあがりタイマーの音と同時に、ときどきしながらふたを開けた。丸こげだったらどうしようと思ったが、目につやつやのごはんがとびこんだ。早速家族にできたことを知らせ、茶碗によそい、みんなで朝ごはんを食べた。

「今日のごはんはいつもの何倍もうまいな。」と父が言い、母も妹も

「おこげもおいしいよ。」

とうれしそうに食べてくれた。ただのごはん、それが他の何よりごちそうに思えた。あの時と同じ幸せな気持ちになれた朝だった。

「ごはんを食べないと力が出ないぞ。」

亡くなった祖父がいつも口にしていた言葉だ。祖父は生前米作りを五十年以上も続けた。米作りは、厳しい暑さ、降り続く雨、台風などの自然災害から稲を守り育てるため重労働が続く。そんな仕事をしてきたからこそ、一食一食がいかに大切か、経験を通して知っていたのだろう。だから我が家は昔から米食である。そのおかげで、勉強でも部活動でも頑張れる自分がある。ごはんを食べられることに感謝して、これからもたくさんの力に変えていきたい。ごはんは、体だけでなく心も元気にする、ぼくのエネルギーの源なのだ。



## 心の主食

米沢市立第一中学校三年

留守 めぐみ

毎日六時二十分、我が家の朝食の時間だ。平日はもちろん、休日でも我が家の朝食はいつもこの時間である。夕食は仕事で帰りの遅い父はほとんど一緒に食べられない。そのかわり、朝食は毎朝家族そろって食べるのが我が家のルールである。

朝が弱い私は毎朝母に起こされ、のろのろと起きてくる。でも、台所のそばにある私の部屋のドアを開けるとすぐ、炊きたてのごはんのいいにおりがして、ぱっちり目覚める。同時に急におなかが減ってくる。

茶碗にごはんをよそうのは私の仕事だ。初めは母がしている仕事だったが、小学校に上がったばかりのころ、私が母にその仕事を譲ってほしいと頼んだのだ。その仕事を私は今

も続けている。炊飯器のごはんにはしゃもじをいれて、下から上へひっくり返す。そっと空気を含ませるようにまぜることで、ごはんがふつくとなるそうさ。そうしてふつくとなつたごはんは一粒一粒がつやつやで輝いているように見える。そして、父、母、私の順に炊き立てのつやつやごはんを丁寧によそう。その時に心で唱える呪文を小さいころ母に教えてもらった。

「今日一日元気で過ごせますように。」

この呪文を唱え始めてもう八年以上になる。そのおかげで今もみんな元気に過ごせているのかもしれない。

「いただきます。」

「いただきます」はお米を作ってくれた農家の人、それにお米に感謝する言葉だ。その意味がわかったのは私が小学四年生の時だった。小学四年生の時、授業で稲作のことを学習し学年みんなでバケツでお米を作ることにチャレンジした。一人一つの青いバケツが配られてそれでお米をつくるのだ。土も何種類かまぜてそれにお米の種もみを植えた。その後もど



んどん生えてくる雑草をむしったり、水をやったりと大変だった。先生に教えてもらった通り、きちんと心をこめてお世話した。毎朝お水をあげて、放課後も家に帰る前に友達と様子を見に行った。クラスの皆と相談して、お米がすずめなどの鳥に食べられないよう、いなくなつたCDを持ち寄つて「鳥よけ」をつくつたりもした。でも収穫できたお米は学年全体合わせてもほんの少し。茶碗の半分にも満たないくらいの少ない量だった。自分たちで作つたお米をみんなで家庭科室のお鍋で炊いた。その時は、量が少ないながら炊き立ての甘い香りがした。米作りの難しさ、そしておいしいお米のありがたさを実感した瞬間だった。

お米は日本人の主食だ。他の国は小麦や、いも、とうもろこしなどでお米と同じ穀物だ。でも私は他の穀物とお米は日本人にとって根本的に違うものだと思つている。エネルギーをとるといふ点では、どの穀物を食べても同じことだろうと思うが、お米は日本人にとって「心」の主食だと私は思う。風邪をひいたとき

はおかゆに、運動会のおときはおにぎりになど日本人の生活に深く根付いている。

三十分程楽しくおしゃべりしながら朝食を食べる。ごはんをかみしめるとだんだん、今日を生きる力がわいてくる。ごはんは一日の元気の源だ。

「ごちそうさま」

こうしていつもの我が家の一日がスタートする。



# 作文部門審査講評

山形市立第五小学校校長

田中 淳

第三十九回を数える本コンクールの作文部門には、県内六八校から三七九点の作品が寄せられました。どの作品もお米やごはんに寄せる思いがしっかりと伝わるものばかりでした。

そのような作品の中から、全国コンクールにおいて庄内町立余目第一小学校四年・松浦蒼一郎さんが農林水産大臣賞に輝き、合わせて庄内町立余目第一小学校が全国学校奨励賞を受賞されました。また、大蔵村立大蔵小学校一年・門脇陽希さん、河北町立西里小学校・六年後藤芽衣さん、山形市立第三中学校・二年森村春輝さんの三名が優秀賞を受賞されました。本当におめでとございます。

また、県審査も行い、各賞を選考しましたが、ここでは県知事賞・農業協同組合中央会会長賞を受賞されたみなさんの作品を紹介します。

## 一部(小学校一年生から三年生)

### ○「じじのおこめはさいこう」

(大蔵村立大蔵小学校一年・門脇陽希・山形県知事賞・全国優秀賞)  
じじのつくったお米がおいしくて最高だという思いが、素直な表現からよく伝わってくる作品です。おじいさんやおばあさんと一緒に農作業を手伝いながら、おいしいお米になる理由や仕事の大変さをしっかりと学んでいる姿に、ほほえましさを感じるとともに家族のあたたかさがしっかりと伝わってきます。

### ○「ぼくの田んぼ」

(寒河江市立西根小学校二年・軽部翔真・山形県農業協同組合中央会会長賞)  
自分だけの田んぼを作ってもらい、「大きなあれ」と愛情を注いで毎日世話をしている様子が目に見えるようです。だんだん生長していくお米に驚きと喜びを感じている翔真君。自分の田んぼでお米が実ったら、家族みんなに食べてもらいたいという思いが説得力を持って伝わってくる作品です。

## 二部(小学校四年生から六年生)

### ○「伝えよう、米作りの行事」

(河北町立西里小学校六年・後藤芽衣・山形県知事賞・全国優秀賞)  
歯切れのよい文章で、冒頭のだんご木の表現から読み手を引きつけま

す。『だんご木飾り作り』や『雪中田植え』などの中島地区に伝わる行事に込められた願いや米作りの大変さ、そして喜びを知った芽衣さん。地区の方々とのふれあいを通して、地域の伝統行事や昔の人々のお米作りの大変さや大切さに気づいていく様子がしっかりと書き込まれています。

### ○「米づくりを体験して」

(新庄市立昭和小学校六年・青木実央・山形県農業協同組合中央会会長賞)  
新庄市で育てられている貴重なもち米『永作もち』。その大切なもち米をいとおしむかのように、五・六年生の仲間とともに一生懸命に育てていく様子が心豊かに生き生きと書き込まれています。昭和小学校が閉校となる今年、一つ一つの作業を通して、母校や郷土への愛着もしっかりと伝わってくる作品です。

## 三部(中学生)

### ○「ごはんの力」

(山形市立第三中学校二年・森村春輝・山形県知事賞・全国優秀賞)  
震災時の自らの体験と見聞を重ね合わせ、一步を踏み出す力のご飯だと位置付けている所が見事です。家族に土鍋でご飯を炊き、家族とのつながりを再確認することでご飯の持つ力を表現し、「体だけでなく心も元気にするエネルギーの素」として、これからの生活に前向きに向かうとする姿が感じられる作品です。

### ○「心の主食」

(米沢市立第一中学校三年・留守めぐみ・山形県農業協同組合中央会会長賞)  
ご飯をよそう仕事と「今日一日元気で過ごせますように。」という呪文を母から引き継いだところに母と娘の絆が感じられます。日本人としてお米を大切にしていきたいという思いと家庭の中心にお米があり、それが心のよりどころとなっていることが素直な表現で描かれています。

## 県学校奨励賞

大蔵村立大蔵小学校と山形市立第三中学校が、それぞれ受賞をしました。おめでとございます。

山形市立南沼原小学校校長 田中 利幸

第三十九回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールの図画部門には、県内一〇九校から七五四名の応募がありました。その中から、県審査で、山形県知事賞、山形県農業協同組合中央会会長賞、県優秀賞、県学校奨励賞の各賞を選考しました。受賞されたみなさん、おめでとうございます。ここでは、県審査において、山形県知事賞、山形県農業協同組合中央会会長賞、学校奨励賞を受賞されたみなさんの作品を紹介いたします。

## 一部(小学校一年生から三年生)

○「おいしそう いただきます」

(尾花沢市立福原小学校二年・三嶋 優・山形県知事賞)

仲良し三人組が遠足にきたのでしょうか。おにぎりやお弁当のご飯がおいしそうです。まん丸い目とかわい口を大きく開けて、「いただきます。」をしました。たくさん遊んで、おなかが減っているのでしょうか。ご飯を口いっぱいにはおぼりながら、楽しく話をする声が聞こえてきそうです。クレヨンでぐいぐいと画面いっぱい力強く描き、真っ白いご飯の

おおいしさが伝わるように、白い絵の具を効果的に使って描いています。友だちと一緒にお弁当を食べるうれしさが伝わってきます。

○「じいじが作った おいしいお米」

(大石田町立大石田小学校二年・鈴木佑奈・山形県農業協同組合中央会会長賞)

米作りとおいしいお米を通じて、じいじと孫たちとの温かく通い合う気持ち伝わってきます。にっこり微笑む表情から、「どうだ、じいじの米はうまいだろう。」という自信満々のじいじの様子や、「さすが、じいじ!」「とつても、おいしいよ。」という孫たちの声が聞こえてくるようです。

刈り取り前のたわわに実った稲穂を、少しずつ絵の具の色を変えながら、点描の効果を生かして描いています。薄く伸び伸びと塗った背景の青い空が、黄色く実った稲と対比し、じいじと孫たちのすがすがしい気持ちを表しています。

## 二部(小学校四年生から六年生)

○「協力の田植え」

(山形市立金井小学校五年・佐藤ひより・山形県知事賞)

学年の友だちと協力して田植えをしています。ひざまで田んぼに入って、手も足も運動着もどろだらけになりながら、一生懸命田植えをしています。

遠近感が出るように人物の配置や大きさを考えた構図になっています。苗を持つ手をしっかりと見つめるまなざし、汗をにじませ腰をかがめながら、真剣に苗を植えている様子から、「おいしいお米になりますように。」という米作りへの思いが伝わります。

○「親子田植え」

(尾花沢市立尾花沢小学校六年・遠藤陸冬・山形県農業協同組合中央会会長賞)

乗用田植機で作業をするお父さんと、苗を運んで手伝いをする自分を描きました。親子で声を掛け合いながらの作業です。

手前にいる自分は大きく、離れたところで作業をする父親を小さく描く構図で、遠近感が出ています。黒々とした田んぼの土に、親子のカラフルな服装が映え、生き生きとした感じがして効果的です。また、複雑な構造の田植機を、よく観察して丁寧に描いています。白地の田植機に薄い影を描いて立体感を出し、黄色や赤、青の部分がアクセントになっています。

## 三部(中学生)

山形県知事賞、山形県農業協同組合中央会会長賞、県優秀賞ともに、該当者ありません。

## 県学校奨励賞

尾花沢市立福原小学校が受賞されました。おめでとうございます。

どの作品からも、大盛りのご飯やおにぎりを前にして、にこにここと大きな声で「いただきます。」をしている様子が目に浮かぶようでした。

また、人物の表情や、お弁当の中味などをクレヨンや絵の具を効果的に使って丁寧に仕上げられており、「ご飯が大好き!」という気持ちが伝わってきました。

今年度は残念ながら、全国コンクールでの受賞、県審査会でも、三部(中学生)の受賞がありませんでした。米離れが心配されていますが、現在、小学校では、生活科や理科、社会科、家庭科や総合的な学習の時間などで、稲作についての学習や米作り体験、ご飯を炊いての会食を通して、食について学ぶ学習が行われています。こうした体験や学びは、米どころである山形県で生まれて育ち、将来、国際社会に生きる子どもたちにとって、大事な根っこ部分になるものです。

また来年も、みなさんのステキな作品と出会えることを期待しています。



| 第33回   | 第32回   | 第31回  | 第30回   | 第29回  | 第28回  |
|--|--|---|--|---|---|
| <p><b>山形県</b></p> <p>●<b>県知事賞</b><br/>押野 明純(鶴岡市)<br/>鈴木 彩(鶴岡市)<br/>有賀この美(鶴岡市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b><br/>會田 空翔(山形市)<br/>伊藤 浩司(鶴岡市)<br/>我妻 隆羅(米沢市)</p> <p>●<b>優秀賞</b><br/>鈴木 彩(鶴岡市)<br/>井上 秀香(真室川町)<br/>山口 まの(鶴岡市)<br/>伊藤南奈美(鶴岡市)<br/>渡部 寿彦(鶴岡市)<br/>黒井 紀香(鶴岡市)<br/>瀬川 隼矢(庄内町)<br/>金野 華奈(鶴岡市)<br/>保科 拓也(鶴岡市)<br/>尾形 有生(米沢市)<br/>進藤小百合(米沢市)<br/>小野寺奈々(鶴岡市)<br/>安達 景都(鶴岡市)<br/>小野寺千尋(鶴岡市)<br/>小野寺陽奈(鶴岡市)<br/>佐藤 理奈(山形市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b><br/>鶴岡市立斎小学校<br/>鶴岡市立朝日中学校</p> | <p><b>山形県</b></p> <p>●<b>県知事賞</b><br/>瀬川 隼矢(庄内町)<br/>河野 美波(鶴岡市)<br/>佐藤 楓(鶴岡市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b><br/>後藤 怜(最上町)<br/>上野 艦(鶴岡市)<br/>山口 和華(天童市)</p> <p>●<b>優秀賞</b><br/>渡部 寿彦(鶴岡市)<br/>笠原妃奈乃(最上町)<br/>伊藤南奈美(鶴岡市)<br/>結城 諒(最上町)<br/>佐藤麻捺夏(鶴岡市)<br/>五十嵐春奈(最上町)<br/>阿部紗世子(最上町)<br/>菅 風沙(最上町)<br/>引地加奈恵(最上町)<br/>齋藤 央奈(山形市)<br/>櫻井 祥太(山形市)<br/>山口 愛実(南陽市)<br/>久保 朝香(米沢市)<br/>橋本明香里(山形市)<br/>小野寺香理(鶴岡市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b><br/>最上町立向町小学校<br/>鶴岡市立第五中学校</p>           | <p><b>山形県</b></p> <p>●<b>県知事賞</b><br/>原田 咲雪(米沢市)<br/>大池 清士(米沢市)<br/>大道寺 滯(米沢市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b><br/>佐藤 悠汰(鶴岡市)<br/>伊藤 浩司(鶴岡市)<br/>榎本江里加(鶴岡市)</p> <p>●<b>優秀賞</b><br/>伊藤 裕太(鶴岡市)<br/>鈴木 彩(鶴岡市)<br/>宮崎 俊也(鶴岡市)<br/>情野 雪海(高畠町)<br/>金野 華奈(鶴岡市)<br/>渡部 実佳(最上町)<br/>沖田 竜馬(米沢市)<br/>有賀この美(鶴岡市)<br/>遠藤 拓実(庄内町)<br/>渡部 香菜(鶴岡市)<br/>尾形 祐佳(鶴岡市)<br/>橋本 美月(米沢市)<br/>那須友賀子(山形市)<br/>後藤 萌(鶴岡市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b><br/>鶴岡市立朝日小学校<br/>米沢市立第一中学校</p>                      | <p><b>山形県</b></p> <p>●<b>県知事賞</b><br/>阿部拓悠真(庄内町)<br/>治部あかね(東根市)<br/>齋藤 那千(鶴岡市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b><br/>後藤 剛(高畠町)<br/>渡部 愛(米沢市)<br/>佐藤 麻衣(山形市)</p> <p>●<b>優秀賞</b><br/>渡部 由夢(高畠町)<br/>阿部 理沙(鶴岡市)<br/>高橋 恵美(最上町)<br/>阿部 貴之(鶴岡市)<br/>齋藤 蓮奈(鶴岡市)<br/>佐藤 彩絵(鶴岡市)<br/>菅野明日香(高畠町)<br/>小林 桜子(山形市)<br/>有賀この美(鶴岡市)<br/>佐藤 誠(庄内町)<br/>山口 真盛(鶴岡市)<br/>川田美沙樹(山形市)<br/>今野 若奈(鶴岡市)<br/>榎本有紀子(鶴岡市)<br/>富樫 美穂(南陽市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b><br/>庄内町立余目第二小学校<br/>鶴岡市立朝日中学校</p>       | <p><b>山形県</b></p> <p>●<b>県知事賞</b><br/>酒井 惇(天童市)<br/>渡部 千尋(朝日村)<br/>長谷川 渚(鶴岡市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b><br/>伊藤 浩司(朝日村)<br/>石山 芽生(最上町)<br/>大湊 希(米沢市)</p> <p>●<b>優秀賞</b><br/>阿部 貴之(柳町町)<br/>齋藤 玲奈(羽根町)<br/>阿部 咲輝(朝日村)<br/>佐藤 緑(山形市)<br/>鈴木菜都美(大石町)<br/>上野由香里(朝日村)<br/>難波 和希(朝日村)<br/>山木 理央(高畠町)<br/>香澤 真佑(最上町)<br/>橋本 大来(最上町)<br/>大浦 沙織(高畠町)<br/>斎藤 那千(朝日村)<br/>御橋夏津子(鶴岡市)<br/>武田 奈緒(鶴岡市)<br/>清野 郁(朝日村)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b><br/>朝日村立朝日小学校<br/>鶴岡市立鶴岡第三中学校</p> | <p><b>山形県</b></p> <p>●<b>県知事賞</b><br/>平 理紗子(高畠町)<br/>石山 涼(最上町)<br/>渡部 沙紀(朝日村)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b><br/>奥山 雅生(最上町)<br/>守岡 雄朗(鶴岡市)<br/>工藤 瑞徳(東根市)</p> <p>●<b>優秀賞</b><br/>石山 加奈(最上町)<br/>菅 風沙(最上町)<br/>伊藤 匠平(最上町)<br/>渋谷 生帆(鶴岡市)<br/>清野 真希(鶴岡市)<br/>今井 大輔(鶴岡市)<br/>菅井美香子(村山市)<br/>五十嵐由香(鶴岡市)<br/>大池 響子(米沢市)<br/>阿達 大和(最上町)<br/>稲垣菜里香(長井市)<br/>土方 花重(鶴岡市)<br/>南齋 宏駿(米沢市)<br/>貝田 理沙(山形市)<br/>宮崎加奈子(朝日村)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b><br/>最上町立富沢小学校<br/>朝日村立朝日中学校</p>     |
| <p><b>全国</b></p> <p>●<b>優秀賞</b><br/>鈴木 彩(鶴岡市)</p>  | <p><b>全国</b></p> <p>●<b>文部科学大臣賞</b><br/>金野 華奈(鶴岡市)</p> <p>●<b>全国中央会会長賞</b><br/>高橋 理久(村山市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b><br/>鶴岡市立羽黒第三小学校</p> <p>●<b>優秀賞</b><br/>佐藤 楓(鶴岡市)</p>  | <p><b>全国</b></p> <p>●<b>優秀賞</b><br/>大池 清士(米沢市)<br/>大道寺 滯(米沢市)</p>   | <p><b>全国</b></p> <p>●<b>内閣総理大臣賞</b><br/>伊藤 浩司(鶴岡市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b><br/>鶴岡市立朝日小学校</p> <p>●<b>優秀賞</b><br/>治部あかね(東根市)<br/>齋藤 那千(鶴岡市)</p>   | <p><b>全国</b></p> <p>●<b>優秀賞</b><br/>酒井 惇(天童市)<br/>渡部 千尋(朝日村)<br/>長谷川 渚(鶴岡市)</p>   | <p><b>全国</b></p> <p>●<b>優秀賞</b><br/>平 理紗子(高畠町)<br/>石山 涼(最上町)<br/>渡部 沙紀(朝日村)</p>   |
| <p><b>山形県</b></p> <p>●<b>県知事賞</b><br/>阿部 篤(尾花沢市)<br/>會田 次郎(山形市)<br/>武田可奈子(山形市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b><br/>菅野 颯(尾花沢市)<br/>押野 尚道(鶴岡市)<br/>岡部 咲(酒田市)</p> <p>●<b>優秀賞</b><br/>島津 諒(高畠町)<br/>加藤 翔龍(尾花沢市)<br/>佐藤 愛竜(尾花沢市)<br/>藤井美名保(尾花沢市)<br/>佐藤 崇人(鶴岡市)<br/>伊藤 陸(天童市)<br/>今野杏有子(三川町)<br/>藤田 麗(鶴岡市)<br/>井上 和也(尾花沢市)<br/>伊藤 浩司(鶴岡市)<br/>佐藤 緑(山形市)<br/>渡邊 千咲(山形市)<br/>上林 穂末(山形市)<br/>鈴木 里奈(山形市)<br/>加地 明里(米沢市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b><br/>尾花沢市立明德小学校<br/>山形市立金井中学校</p>              | <p><b>山形県</b></p> <p>●<b>県知事賞</b><br/>佐藤 永一(尾花沢市)<br/>花山 伶奈(寒河江市)<br/>堀野 佑衣(山形市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b><br/>森谷 康平(山形市)<br/>伊藤 浩司(鶴岡市)<br/>垂石 杏(山形市)</p> <p>●<b>優秀賞</b><br/>三澤 悠花(尾花沢市)<br/>鈴木 芹奈(鶴岡市)<br/>本間 智広(尾花沢市)<br/>押野 尚道(鶴岡市)<br/>吉田 周平(尾花沢市)<br/>森 謙太(尾花沢市)<br/>原田 紘(高畠町)<br/>菅野 静香(尾花沢市)<br/>香澤 佑樹(山形市)<br/>丸田 駿平(尾花沢市)<br/>羽角 栗(山形市)<br/>島津 桃子(米沢市)<br/>石井 志織(山形市)<br/>橋本明香里(山形市)<br/>中村 実那(山形市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b><br/>寒河江市立醍醐小学校<br/>山形市立金井中学校</p> | <p><b>山形県</b></p> <p>●<b>県知事賞</b><br/>會田 三郎(山形市)<br/>今野美季子(三川町)<br/>齋藤 里沙(鶴岡市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b><br/>押野 尚道(鶴岡市)<br/>伊藤 浩司(鶴岡市)<br/>玉虫 正和(米沢市)</p> <p>●<b>優秀賞</b><br/>佐藤 俊貴(鶴岡市)<br/>高橋 翔太(高畠町)<br/>小黒 拓真(高畠町)<br/>長谷川 舞(鶴岡市)<br/>佐藤 琳(尾花沢市)<br/>東海林 道(尾花沢市)<br/>上林 晃(鶴岡市)<br/>森谷 麻衣(山形市)<br/>佐藤 瑞貴(鶴岡市)<br/>西塚 祐斗(尾花沢市)<br/>長岡 佑佳(山形市)<br/>大木 拓也(米沢市)<br/>石川紗己子(米沢市)<br/>佐藤 広康(山形市)<br/>志田 優花(山形市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b><br/>尾花沢市立福原中部小学校<br/>米沢市立第六中学校</p> | <p><b>山形県</b></p> <p>●<b>県知事賞</b><br/>會田 次郎(山形市)<br/>小野寺百茄(鶴岡市)<br/>日下部仁美(米沢市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b><br/>大類 海斗(尾花沢市)<br/>浜田ひかり(南陽市)<br/>木村 友美(山形市)</p> <p>●<b>優秀賞</b><br/>星川 瑞生(山形市)<br/>石山 詩穂(尾花沢市)<br/>新田 尚太(山形市)<br/>笹原浩太郎(尾花沢市)<br/>佐藤つぐみ(鶴岡市)<br/>加賀 東杜(大石町)<br/>溝越 舞子(尾花沢市)<br/>藤谷 睦妃(鶴岡市)<br/>鈴木 潤(尾花沢市)<br/>有路 杏子(尾花沢市)<br/>長岡 佑佳(山形市)<br/>遠藤 瑞紀(山形市)<br/>伊藤 茜(山形市)<br/>神田 涼真(米沢市)<br/>佐藤 勇太(鶴岡市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b><br/>尾花沢市立高橋小学校<br/>山形市立金井中学校</p> | <p><b>山形県</b></p> <p>●<b>県知事賞</b><br/>佐藤 瑞貴(鶴岡市)<br/>折原 菜純(尾花沢市)<br/>高島 絵理(山形市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b><br/>笠原 錬(最上町)<br/>難波 沙英(朝日村)<br/>小野紗由季(山形市)</p> <p>●<b>優秀賞</b><br/>東海林梨奈(尾花沢市)<br/>倉金 卓美(尾花沢市)<br/>柴若 日向(尾花沢市)<br/>原田 桃香(尾花沢市)<br/>阿部 風子(尾花沢市)<br/>西尾 昂太(尾花沢市)<br/>荘司 留加(尾花沢市)<br/>斎藤 千佳(朝日村)<br/>七森 結花(朝日村)<br/>佐藤 光(温海町)<br/>花等 雄太(山形市)<br/>小玉 愛(上山市)<br/>古川 千夏(山形市)<br/>板垣 友也(山形市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b><br/>朝日村立朝日小学校<br/>山形市立金井中学校</p>         | <p><b>山形県</b></p> <p>●<b>県知事賞</b><br/>笹原 瑞紀(尾花沢市)<br/>乙坂ひかり(温海町)<br/>高島 絵理(山形市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b><br/>嶋井 葉月(鶴岡市)<br/>難波 紗矢(朝日村)<br/>板垣 友也(山形市)</p> <p>●<b>優秀賞</b><br/>阿部 翼(最上町)<br/>高野 陽希(最上町)<br/>木村 さえり(鶴岡市)<br/>窓崎 龍星(大石町)<br/>本間 円(尾花沢市)<br/>佐藤真理絵(温海町)<br/>小内 将弘(尾花沢市)<br/>鈴木 結(藤島町)<br/>國分 雅哉(尾花沢市)<br/>須田 琳子(鶴岡市)<br/>日下部まどか(山形市)<br/>設楽なつみ(山形市)<br/>清野 美香(山形市)<br/>伊藤 歩(山形市)<br/>吉田真優美(山形市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b><br/>温海町立温海小学校<br/>山形市立金井中学校</p> |
| <p><b>全国</b></p> <p>●<b>内閣総理大臣賞</b><br/>栗野 梨恵(山形市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b><br/>山形市立第九中学校</p> <p>●<b>優秀賞</b><br/>會田 次郎(山形市)</p>  | <p><b>全国</b></p> <p>●<b>農林水産大臣賞</b><br/>會田 次郎(山形市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b><br/>山形市立南小学校</p> <p>●<b>優秀賞</b><br/>花山 伶奈(寒河江市)<br/>堀野 佑衣(山形市)</p>   | <p><b>全国</b></p> <p>●<b>農林水産大臣賞</b><br/>須藤 萌(山形市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b><br/>山形市立第九中学校</p> <p>●<b>優秀賞</b><br/>會田 三郎(山形市)<br/>今野美季子(三川町)<br/>小野寺百茄(鶴岡市)</p>  | <p><b>全国</b></p> <p>●<b>内閣総理大臣賞</b><br/>三浦 潤平(山形市)</p> <p>●<b>全国中央会会長賞</b><br/>今野 桃子(山形市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b><br/>山形市立第九中学校</p> <p>●<b>優秀賞</b><br/>會田 次郎(山形市)</p>   | <p><b>全国</b></p> <p>●<b>優秀賞</b><br/>佐藤 瑞貴(鶴岡市)<br/>折原 菜純(尾花沢市)<br/>高島 絵理(山形市)</p>   | <p><b>全国</b></p> <p>●<b>農林水産大臣賞</b><br/>栗野幸智恵(山形市)</p> <p>●<b>全国中央会会長賞</b><br/>伊藤 拓也(朝日村)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b><br/>山形市立第九中学校</p>  |

| 第39回   | 第38回  | 第37回  | 第36回  | 第35回   | 第34回  |
|--|---|---|---|--|---|
| <p><b>山形県</b><br/>●<b>県知事賞</b><br/>門脇 陽希(大蔵村)<br/>後藤 芽衣(河北町)<br/>森村 春輝(山形市)<br/>●<b>県中央会会長賞</b><br/>軽部 翔真(寒河江市)<br/>青木 実央(新庄市)<br/>留守めぐみ(米沢市)<br/>●<b>優秀賞</b><br/>後藤 天星(最上町)<br/>早坂 颯真(東根市)<br/>加藤 響(大蔵村)<br/>後藤 有璃(高畠町)<br/>伊藤准輝亜(高畠町)<br/>小澤 爽太(白鷹町)<br/>五十嵐広大(鶴岡市)<br/>丸山 美優(鶴岡市)<br/>打田ゆらら(白鷹町)<br/>荒木 怜(最上町)<br/>八巻 怜花(米沢市)<br/>山口 雅乃(鶴岡市)<br/>今野 佑香(米沢市)<br/>渋江 初菜(山形市)<br/>井上 砂城(鶴岡市)<br/>●<b>学校奨励賞</b><br/>大蔵村立大蔵小学校<br/>山形市立第三中学校</p> | <p><b>山形県</b><br/>●<b>県知事賞</b><br/>佐々木美耀(米沢市)<br/>高橋満里奈(新庄市)<br/>小野寺涼太(鶴岡市)<br/>●<b>県中央会会長賞</b><br/>阿部 聖音(酒田市)<br/>佐藤 礼夢(鶴岡市)<br/>安部 優香(米沢市)<br/>●<b>優秀賞</b><br/>上林 奈央(鶴岡市)<br/>津藤 奏(山形市)<br/>小野幸治郎(大蔵村)<br/>早坂 大翔(大蔵村)<br/>安部 真桜(米沢市)<br/>田村 健人(米沢市)<br/>諏訪 琳音(鶴岡市)<br/>大滝 星矢(鶴岡市)<br/>佐藤 陽理(南陽市)<br/>伊藤 日高(鶴岡市)<br/>伊藤 優太(山形市)<br/>鈴木 千絵(南陽市)<br/>高橋真惟子(南陽市)<br/>石原 花凛(飯豊町)<br/>清和 怜真(鶴岡市)<br/>●<b>学校奨励賞</b><br/>大蔵村立大蔵小学校<br/>鶴岡市立朝日中学校</p>            | <p><b>山形県</b><br/>●<b>県知事賞</b><br/>伊藤 風牙(鶴岡市)<br/>井上 瑞貴(山形市)<br/>松藻 大吾(米沢市)<br/>●<b>県中央会会長賞</b><br/>佐竹 巧(山形市)<br/>笹本 悠奈(庄内町)<br/>我妻隆太郎(米沢市)<br/>●<b>優秀賞</b><br/>早坂 大翔(大蔵村)<br/>朝倉 愛子(南陽市)<br/>丸山 美優(鶴岡市)<br/>渋谷 結(鶴岡市)<br/>佐藤 光(鶴岡市)<br/>池田 結(庄内町)<br/>會田 空翔(山形市)<br/>森 優奈(米沢市)<br/>佐藤みのり(庄内町)<br/>齋藤 結月(鶴岡市)<br/>須貝 麗夢(米沢市)<br/>小野寺拓海(鶴岡市)<br/>高内 滯奈(山形市)<br/>井上 れな(鶴岡市)<br/>遠藤 美月(鶴岡市)<br/>●<b>学校奨励賞</b><br/>鶴岡市立朝日小学校<br/>米沢市立第四中学校</p>                | <p><b>山形県</b><br/>●<b>県知事賞</b><br/>五十嵐まりあ(山形市)<br/>土門 匠(天童市)<br/>早川 舞乃(山形市)<br/>●<b>県中央会会長賞</b><br/>大滝 楓人(鶴岡市)<br/>伊藤 琉圭(鶴岡市)<br/>阿部 咲輝(鶴岡市)<br/>●<b>優秀賞</b><br/>森 壮汰(村山市)<br/>安達 涼乃(大石町)<br/>阿部 夢叶(最上町)<br/>横山 陽音(米沢市)<br/>大滝 星矢(鶴岡市)<br/>細久 愛結(村山市)<br/>矢萩 優生(村山市)<br/>曾根 匠人(米沢市)<br/>佐藤 亜美(鶴岡市)<br/>渡部さくら(鶴岡市)<br/>太田 里美(米沢市)<br/>渡部 羅羅(鶴岡市)<br/>森谷 咲耶(東根市)<br/>舟山 愛理(米沢市)<br/>中村梨恵子(山形市)<br/>●<b>学校奨励賞</b><br/>鶴岡市立朝日大泉小学校<br/>鶴岡市立朝日中学校</p>          | <p><b>山形県</b><br/>●<b>県知事賞</b><br/>寺崎亜寿美(大石町)<br/>工藤 暢晃(庄内町)<br/>小野 茜(朝日町)<br/>●<b>県中央会会長賞</b><br/>佐藤 流偉(鶴岡市)<br/>菅原彩花里(鶴岡市)<br/>菅井 滯(朝日町)<br/>●<b>優秀賞</b><br/>後藤 美空(米沢市)<br/>菅原 菜央(鶴岡市)<br/>鈴木 駿佑(大石町)<br/>會田 空翔(山形市)<br/>鈴木 花凛(米沢市)<br/>伊藤南奈美(鶴岡市)<br/>長沼龍之介(高畠町)<br/>斉藤 健(寒室川町)<br/>齋藤 元希(大石町)<br/>小林 一樹(寒河江市)<br/>井上 玲(米沢市)<br/>大橋 鉄郎(米沢市)<br/>坂野 涼子(米沢市)<br/>江部ひふみ(米沢市)<br/>杵澤 佑樹(山形市)<br/>●<b>学校奨励賞</b><br/>大石町立大石田小学校<br/>朝日町立朝日中学校</p>       | <p><b>山形県</b><br/>●<b>県知事賞</b><br/>伊藤南奈美(鶴岡市)<br/>難波 葵(鶴岡市)<br/>平山 美紀(山形市)<br/>●<b>県中央会会長賞</b><br/>今野 杏唯(鶴岡市)<br/>菅 瑞季(最上町)<br/>白石みおり(米沢市)<br/>●<b>優秀賞</b><br/>原田 真白(米沢市)<br/>會田 空翔(山形市)<br/>押切 真依(最上町)<br/>後藤 大空(米沢市)<br/>押野 明純(鶴岡市)<br/>高橋 歩美(高畠町)<br/>阿部 杏香(鶴岡市)<br/>安部 航大(高畠町)<br/>近藤 舞(鶴岡市)<br/>山下 純平(最上町)<br/>遠藤 ゆい(鶴岡市)<br/>渡部 奏(米沢市)<br/>高橋 泰(米沢市)<br/>山口 大智(南陽市)<br/>我妻 隆羅(米沢市)<br/>●<b>学校奨励賞</b><br/>鶴岡市立朝日小学校<br/>鶴岡市立朝日中学校</p>          |
| <p><b>全国</b><br/>●<b>農林水産大臣賞</b><br/>松浦蒼一郎(庄内町)<br/>●<b>優秀賞</b><br/>門脇 陽希(大蔵村)<br/>後藤 芽衣(河北町)<br/>森村 春輝(山形市)<br/>●<b>学校奨励賞</b><br/>庄内町立余目第一小学校</p>   | <p><b>全国</b><br/>●<b>優秀賞</b><br/>小野寺涼太(鶴岡市)</p>   | <p><b>全国</b><br/>●<b>優秀賞</b><br/>伊藤 風牙(鶴岡市)<br/>井上 瑞貴(米沢市)<br/>松藻 大吾(米沢市)</p>   | <p><b>全国</b><br/>●<b>文部科学大臣賞</b><br/>小林 千紗(高畠町)<br/>●<b>優秀賞</b><br/>五十嵐まりあ(山形市)<br/>●<b>学校奨励賞</b><br/>高畠町立第二中学校</p>   | <p><b>全国</b><br/>●<b>文部科学大臣賞</b><br/>瀬川 隼矢(庄内町)<br/>●<b>農林水産大臣賞</b><br/>石森 泉(鶴岡市)<br/>●<b>学校奨励賞</b><br/>庄内町立余目第四小学校<br/>鶴岡市立鶴岡第四中学校</p>  | <p><b>全国</b><br/>●<b>農林水産大臣賞</b><br/>齋藤 隼也(鶴岡市)<br/>●<b>学校奨励賞</b><br/>鶴岡市立西郷小学校<br/>●<b>優秀賞</b><br/>白石みおり(米沢市)<br/>平山 美紀(山形市)</p>   |
| <p><b>山形県</b><br/>●<b>県知事賞</b><br/>三嶋 優(尾花沢市)<br/>佐藤ひより(山形市)<br/>●<b>県中央会会長賞</b><br/>鈴木 佑奈(大石町)<br/>遠藤 陸冬(尾花沢市)<br/>●<b>優秀賞</b><br/>星川 葵(尾花沢市)<br/>原田 結奈(尾花沢市)<br/>星川 椿(尾花沢市)<br/>矢作 結苺(尾花沢市)<br/>富樫 智花(山形市)<br/>小野 慈和(尾花沢市)<br/>今野 泰成(尾花沢市)<br/>五十嵐雄汰(鶴岡市)<br/>佐藤 夏都(鶴岡市)<br/>菅藤 心菜(尾花沢市)<br/>●<b>学校奨励賞</b><br/>尾花沢市立福原小学校</p>  | <p><b>山形県</b><br/>●<b>県知事賞</b><br/>阿部 大翔(尾花沢市)<br/>二瓶 寛太(山形市)<br/>平間 杏奈(山形市)<br/>●<b>県中央会会長賞</b><br/>江刺さくら(尾花沢市)<br/>早坂 美羽(尾花沢市)<br/>本澤 育実(山形市)<br/>●<b>優秀賞</b><br/>五十嵐羽琉(鶴岡市)<br/>堀江 星琉(尾花沢市)<br/>笹原 月吹(尾花沢市)<br/>伊藤 愛心(村山市)<br/>佐藤 なお(鶴岡市)<br/>渡辺 成美(尾花沢市)<br/>鈴木 来春(尾花沢市)<br/>齋藤 亜子(尾花沢市)<br/>菅藤 優成(尾花沢市)<br/>佐藤 花玲(鶴岡市)<br/>井上 楓(山形市)<br/>山口 桃佳(山形市)<br/>枝松 伶奈(山形市)<br/>藤原 優衣(山形市)<br/>齋藤 穂歌(山形市)<br/>●<b>学校奨励賞</b><br/>尾花沢市立尾花沢小学校<br/>山形市立第九中学校</p> | <p><b>山形県</b><br/>●<b>県知事賞</b><br/>押切 零旺(尾花沢市)<br/>渡辺 成美(尾花沢市)<br/>高橋 綾香(山形市)<br/>●<b>県中央会会長賞</b><br/>渡會 圭悟(尾花沢市)<br/>日下 和也(高畠町)<br/>竹田夏奈子(山形市)<br/>●<b>優秀賞</b><br/>三浦 匠悟(尾花沢市)<br/>小林 由侑(尾花沢市)<br/>伊藤 拓磨(尾花沢市)<br/>西尾 真央(鶴岡市)<br/>叶野 空和(鶴岡市)<br/>長永 千佳(庄内町)<br/>吉田京次郎(山形市)<br/>柴田 唯斗(天童市)<br/>砂田 千夢(鶴岡市)<br/>東海林玲奈(尾花沢市)<br/>平間 杏奈(山形市)<br/>秋葉ひなの(山形市)<br/>渡邊 美佑(山形市)<br/>平吹 百恵(山形市)<br/>鎌田美乃里(山形市)<br/>●<b>学校奨励賞</b><br/>尾花沢市立福原中部小学校<br/>山形市立金井中学校</p> | <p><b>山形県</b><br/>●<b>県知事賞</b><br/>齋藤 匠(東根市)<br/>溝越 真輝(尾花沢市)<br/>大滝 日菜(山形市)<br/>●<b>県中央会会長賞</b><br/>星川 悠人(尾花沢市)<br/>小幡 あみ(尾花沢市)<br/>半田さつき(山形市)<br/>●<b>優秀賞</b><br/>越前 快斗(尾花沢市)<br/>尾崎 李果(尾花沢市)<br/>笹原 優極(尾花沢市)<br/>叶野 空和(鶴岡市)<br/>宇田 竜健(庄内町)<br/>東海林玲奈(尾花沢市)<br/>本間 海成(尾花沢市)<br/>小幡 圭佑(尾花沢市)<br/>三浦 幸司(尾花沢市)<br/>佐藤 俊貴(鶴岡市)<br/>進藤 円(山形市)<br/>梅木 泉美(山形市)<br/>高橋 真優(山形市)<br/>横沢 美玖(山形市)<br/>齋藤 光(南陽市)<br/>●<b>学校奨励賞</b><br/>尾花沢市立福原中部小学校<br/>山形市立第九中学校</p> | <p><b>山形県</b><br/>●<b>県知事賞</b><br/>柴崎 真人(最上町)<br/>森谷 康平(山形市)<br/>原田 拓夢(山形市)<br/>●<b>県中央会会長賞</b><br/>加賀 悠大(鶴岡市)<br/>小幡 圭佑(尾花沢市)<br/>荒井瑛絵子(山形市)<br/>●<b>優秀賞</b><br/>高橋 龍馬(大石町)<br/>鈴木 来春(尾花沢市)<br/>笹原 実莉(尾花沢市)<br/>五十嵐一樹(尾花沢市)<br/>西塚 優太(尾花沢市)<br/>星 竜成(米沢市)<br/>佐藤 一貴(天童市)<br/>五十嵐友寿(鶴岡市)<br/>佐藤 俊貴(鶴岡市)<br/>押野 高道(鶴岡市)<br/>大滝 日菜(山形市)<br/>高橋 里沙(山形市)<br/>吉田 心(山形市)<br/>遠藤 千央(山形市)<br/>鈴木 里奈(山形市)<br/>●<b>学校奨励賞</b><br/>鶴岡市立朝陽第二小学校<br/>山形市立金井中学校</p> | <p><b>山形県</b><br/>●<b>県知事賞</b><br/>丹波 優大(尾花沢市)<br/>森谷 康平(山形市)<br/>鈴木 智佳(山形市)<br/>●<b>県中央会会長賞</b><br/>菅 佑菜(最上町)<br/>小幡 剛(尾花沢市)<br/>武田可奈子(山形市)<br/>●<b>優秀賞</b><br/>伊藤日向子(鶴岡市)<br/>廣瀬 佳那(尾花沢市)<br/>平井 堅太(高畠町)<br/>宮崎 泰成(鶴岡市)<br/>西尾 文佳(尾花沢市)<br/>海谷 有美(高畠町)<br/>佐藤 一貴(尾花沢市)<br/>高橋 捷(尾花沢市)<br/>今野杏有子(三川町)<br/>前田 和哉(鶴岡市)<br/>荒井瑛絵子(山形市)<br/>田中 敦子(山形市)<br/>阿部 浩宜(山形市)<br/>岸 由麻(山形市)<br/>三浦 彩希(山形市)<br/>●<b>学校奨励賞</b><br/>尾花沢市立尾花沢小学校<br/>山形市立第九中学校</p> |
| <p><b>全国</b><br/>●<b>農林水産大臣賞</b><br/>志田 葉月(山形市)<br/>●<b>学校奨励賞</b><br/>山形市立第九中学校</p>  | <p><b>全国</b><br/>●<b>優秀賞</b><br/>平間 杏奈(山形市)</p>   | <p><b>全国</b><br/>●<b>農林水産大臣賞</b><br/>志田 葉月(山形市)<br/>●<b>学校奨励賞</b><br/>山形市立第九中学校</p>   | <p><b>全国</b><br/>●<b>優秀賞</b><br/>半田さつき(山形市)</p>   | <p><b>全国</b><br/>●<b>農林水産大臣賞</b><br/>西田 知世(山形市)<br/>●<b>学校奨励賞</b><br/>山形市立第九中学校</p>  | <p><b>全国</b><br/>●<b>農林水産大臣賞</b><br/>會田 一郎(山形市)<br/>●<b>学校奨励賞</b><br/>山形市立南小学校<br/>●<b>優秀賞</b><br/>鈴木 智佳(山形市)</p>   |

図 画 部 門

# 第 39 回

## 「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール審査経過の概要

### ■応募数

作文：379点  
 図画：754点                      合計 1,133点

| 区分   | 1部   | 2部   | 3部   | 計    |
|------|------|------|------|------|
| 作文部門 | 95点  | 134点 | 150点 | 379点 |
| 図画部門 | 353点 | 382点 | 19点  | 754点 |

我妻 友美 (上山市立上山小学校 教諭)  
 小林 敦子 (大江町立左沢小学校 教諭)  
 森 勇人 (東根市立第二中学校 教諭)

### ■審査結果

図画部門  
 審査委員長 田中 利幸 (山形市立南沼原小学校 校長)  
 笹原 聡 (村山市立葉山中学校 教頭)  
 橋 孝志 (寒河江市立寒河江中部小学校 教諭)

### ■審査

- (1) 県予選審査期日  
 作文部門 平成26年10月21日(火)  
 図画部門 平成26年10月24日(金)
- (2) 全国コンクール審査  
 期日:平成26年11月28日(金)
- (3) 県コンクール審査  
 期日:平成27年 1月22日(木)

### ■審査結果

- (1) 全国コンクール (県内入賞者(校)数)
  - ・農林水産大臣賞 作文部門1名
  - ・優秀賞 作文部門3名
  - ・学校奨励賞 1校
- (2) 県コンクール
  - ・山形県知事賞 作文部門3名/図画部門2名
  - ・山形県農業協同組合中央会会長賞  
 作文部門3名/図画部門2名
  - ・優秀賞 作文部門15名/図画部門10名
  - ・学校奨励賞 作文部門2校/図画部門1校

### ■審査委員

#### 【県コンクール】

作文部門  
 審査委員長 田中 淳 (山形市立第五小学校 校長)  
 佐藤 昌宏 (山形市立蔵王第二中学校 教頭)

### ■表彰式

期日:平成27年2月7日(土)  
 会場:山形市「山形国際ホテル」

| 年度           | 部門       | 1部         | 2部         | 3部        | 合計           |
|--------------|----------|------------|------------|-----------|--------------|
| 9<br>(第22回)  | 作文<br>図画 | 63<br>643  | 229<br>461 | 69<br>40  | 361<br>1,144 |
| 10<br>(第23回) | 作文<br>図画 | 75<br>907  | 137<br>594 | 117<br>47 | 329<br>1,548 |
| 11<br>(第24回) | 作文<br>図画 | 108<br>869 | 195<br>450 | 108<br>26 | 411<br>1,345 |
| 12<br>(第25回) | 作文<br>図画 | 65<br>495  | 122<br>311 | 112<br>9  | 299<br>815   |
| 13<br>(第26回) | 作文<br>図画 | 45<br>731  | 143<br>408 | 91<br>16  | 279<br>1,155 |
| 14<br>(第27回) | 作文<br>図画 | 91<br>688  | 98<br>417  | 132<br>23 | 321<br>1,128 |
| 15<br>(第28回) | 作文<br>図画 | 87<br>771  | 82<br>589  | 189<br>30 | 358<br>1,390 |
| 16<br>(第29回) | 作文<br>図画 | 50<br>449  | 157<br>468 | 129<br>29 | 336<br>946   |
| 17<br>(第30回) | 作文<br>図画 | 67<br>523  | 87<br>496  | 156<br>37 | 310<br>1,056 |
| 18<br>(第31回) | 作文<br>図画 | 33<br>429  | 217<br>499 | 227<br>29 | 477<br>957   |
| 19<br>(第32回) | 作文<br>図画 | 44<br>488  | 117<br>418 | 225<br>27 | 386<br>933   |
| 20<br>(第33回) | 作文<br>図画 | 58<br>550  | 84<br>412  | 231<br>27 | 373<br>989   |
| 21<br>(第34回) | 作文<br>図画 | 77<br>521  | 95<br>376  | 235<br>26 | 407<br>923   |
| 22<br>(第35回) | 作文<br>図画 | 68<br>531  | 151<br>308 | 196<br>67 | 415<br>906   |
| 23<br>(第36回) | 作文<br>図画 | 56<br>531  | 66<br>290  | 266<br>32 | 388<br>853   |
| 24<br>(第37回) | 作文<br>図画 | 51<br>424  | 61<br>309  | 211<br>36 | 323<br>769   |
| 25<br>(第38回) | 作文<br>図画 | 56<br>450  | 83<br>372  | 150<br>19 | 289<br>841   |
| 26<br>(第39回) | 作文<br>図画 | 95<br>353  | 134<br>382 | 150<br>19 | 379<br>754   |



# ◆第39回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール募集要領◆

## 1. 趣 旨

本コンクールは、JAグループがすすめる「みんなのよい食プロジェクト」の一環として、これからの食・農・地域を担う次世代の子どもたちに、お米・ごはん食、稲作など、日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきた稲作農業全般についての学びを深めてもらうとともに、子どもたちの優れた作品を顕彰することを通じて、お米・ごはん食・日本食の重要性を広く周知することを目的として実施する。

## 2. 課 題 (作文・図画両部門共通)

毎日のごはんでおいしかったことや家族とのコミュニケーション、お米・ごはん食に関しての思い出や考えたことなどを素直な気持ちで自由に表現して下さい。

## 3. 応募資格

小学校および中学校に在籍する児童・生徒。  
特別支援学校の小学部、中学部。

## 4. 応募規格 (枚数・大きさ)

### 【作文部門】

- 1部 小学校1年生～3年生 (400字詰め原稿用紙2枚以内、またはマス目の大きい原稿用紙で800字以内)
- 2部 小学校4年生～6年生 (400字詰め原稿用紙3枚以内)
- 3部 中学校1年生～3年生 (400字詰め原稿用紙4枚以内)

(注)作文用紙1枚目の1行目に作品の題名、2行目に学校名、学年、氏名、3行目から本文を書き出してください。

(注)本人による直筆を原則とし、パソコンなどにより作成した原稿は応募不可とします。ただし、視覚・手に障害のある児童・生徒については、その旨を特記事項として応募票の欄外に記述した場合のみ、パソコンなどで作成した原稿の応募を認めます。

### 【図画部門】

- 1部 小学校1年生～3年生
  - 2部 小学校4年生～6年生
  - 3部 中学校1年生～3年生
- B3判、もしくは四つ切りの市販画用紙を使用。画材はとくに制限しません。

## 5. 応募規則

- (1) 課題にそった作品を対象とします。
- (2) 他のコンテストに応募していない作品に限ります。
- (3) ひとりで1部門に2点以上の応募はできません。2点以上応募の場合は、2点とも審査対象外となる場合があります。
- (4) 図画作品でポスター形式(標語・キャッチフレーズ文字の入ったもの)のものは応募できません。
- (5) 学校で応募の際は、別添の推薦名簿(作文部門6ページ、図画部門7ページ)を切り取りもしくはコピーしたうえで記入し、必ず添付してください。コピーする場合は、必ずA4サイズでコピーしてください。
- (6) 作品には、1点ごとに次の事項を記入した応募票(5ページ)をつけてください。つける位置は最後のページの裏面、図画は裏面中央とします。①作品の題名②氏名・性別③学校名・学年・組④学校の所在地(郵便番号・電話番号)⑤本人の住所(郵便番号・電話番号)⑥JA(農業協同組合)名
- (7) 全国コンクールの大臣賞および全国農業協同組合中央会長賞入賞作品は平成27年2月に返却予定です。なお、作品の著作権は全国農業協同組合中央会および山形県農業協同組合中央会に帰属します。山形県コンクールの山形県知事賞および山形県農業協同組合中央会会長賞受賞作品は、協同の杜「JA 研修所」に1年展示後、平成28年2月上旬に返却予定です。
- (8) 本コンクールの作品応募に際して提供された個人情報は、承諾なく第三者に提供しません。ただし、入賞者については入賞発表や表彰式などのほか、広報媒体への露出や作品展示などの広報活動で公表する場合があります。

## 6. 締切日

平成26年9月30日(火) ※必着

## 7. 全国段階との関連

- (1) 県段階で予選審査を行い、各部門各部門ごとに数点を全国コンクールに推薦します。
- (2) 全国コンクール入賞作品以外(優秀賞除く)の作品を対象に、山形県コンクール審査を行い、山形県段階の入賞作品を決定します。

## 8. 審査員

### 【全国コンクール】

- |       |  |
|-------|--|
| 審査委員長 | 中村 靖彦氏(東京農業大学客員教授、農政ジャーナリスト)                                   |
| 作文部門  | 真鍋 和子氏((社)日本児童文学者協会理事、日本大学芸術学部講師)<br>森田 盛行氏((公社)全国学校図書館協議会理事長) |
|       | 中川 李枝子氏(児童文学作家)  |
| 〈幹事〉  | 竹村 和子氏((公社)全国学校図書館協議会常務理事)                                     |
| 図画部門  | 西巻 茅子氏(絵本作家)<br>小柳津 須看枝氏(日本美術家連盟会員、サロン・ド・トウキョー運営委員)            |
|       | 岡村 泰成氏(美術家集団「Moss Spirits」代表、日本美術家連盟会員)                        |
| 〈幹事〉  | 中馬 誠二氏(季風会同人)  |

### 【山形県コンクール】

県教育庁および小・中学校教員(作文部門6名、図画部門4名)

## 9. 賞

### 【全国コンクール】

- (1) 内閣総理大臣賞 作文・図画部門各1名——計2名  
賞状と副賞(記念盾およびお米券、記念品)
- (2) 文部科学大臣賞 各部門各部門ごとに1名——計6名  
賞状と副賞(お米券および記念品)
- (3) 農林水産大臣賞 各部門各部門ごとに1名——計6名  
賞状と副賞(お米券および記念品)
- (4) 全国農業協同組合中央会会長賞  
各部門各部門ごとに1名——計6名  
賞状と副賞(お米券および記念品)
- (5) 優 秀 賞 各部門各部門ごとに15名——計90名  
賞状と副賞(記念品)
- (6) 学校奨励賞 内閣総理大臣・文部科学大臣・農林水産大臣  
各賞受賞者所属校——計14校  
賞状

### 【山形県コンクール】

- (1) 山形県知事賞 各部門各部門ごとに1名——計6名  
賞状と副賞
- (2) 山形県農業協同組合中央会会長賞  
各部門各部門ごとに1名——計6名  
賞状と副賞
- (3) 優 秀 賞 各部門各部門ごとに5名——計30名  
賞状と副賞
- (4) 学校奨励賞 各部門各部門ごとに1校——計4校  
賞状と副賞

## 10. 入賞発表・表彰式(作文・図画両部門共通)

### 【全国コンクール】

- (1) 入賞発表 平成26年12月8日(月)
- (2) 表彰式 平成27年1月9日(金)  
(入賞校、入賞者宛通知します。)

### 【山形県コンクール】

- (1) 入賞発表 平成27年1月下旬(予定)
- (2) 表彰式 平成27年2月下旬(予定)  
(入賞校、入賞者宛通知します。)

## 11. 主 催

農業協同組合／都道府県農業協同組合中央会／全国農業協同組合中央会

## 12. 受付窓口および問合せ先

- (1) 県内の各JAを受付窓口とします。
- (2) 県段階は次にお問い合わせください。

〒990-0042  
山形市七日町三丁目1番16号  
山形県農業協同組合中央会(JA山形中央会)  
農業農政部「作文・図画コンクール係」  
担当:坂部 石塚 まで  
TEL:023-634-8114 FAX:023-633-1754



**作文2部**  
**●農林水産大臣賞●**  
 「祖父に学ぶ米作り」  
 庄内町立余目第一小学校四年  
 松浦 蒼一郎 さん

祖父に学ぶ米作り  
 庄内町立余目第一小学校 四年 松浦蒼一郎  
 「ぼくの家は農家です。祖父と父が米作りを  
 しています。祖父と父が作る米はとてもおい  
 しくてぼくの自慢です。ぼくも春に種まきを  
 手伝いました。二十キロロラムの種もみが入  
 りました。こらして、  
 と言、て種を上げて機械に入れるのに「祖父  
 は軽々と持ち上げて機械に入れます。」  
 祖父は力だけがなく、米作りの種々が知識  
 も豊富です。小さいとき、祖父と父が  
 「地面の温度はまだ十二度だな。」  
 と話しているのを聞いたことがありました。  
 小さい頃は何のことがわかりませんでした  
 が、今年の夏に読んだ本の中に、「田んぼの  
 苗を植えるには、地面の温度が十三度以上  
 になる五月の連休から」と書いてありました  
 父と祖父は田植えの時期の相談をしていた  
 ました。祖父は苗を育てる時、一畝の気温の低

い時期はハゲアケ苗を守るが、守りすぎても  
 強い苗にならなってしまう。だから、苗本来の力  
 を信じて強い苗を育てることが大切だと教  
 えてくれました。田植えをする時も祖父のたく  
 さんの知恵と工夫があると思いました。  
 稲を田んぼで育てていることにもわけがあ  
 りました。それは稲が水の好きな植物で、田  
 んぼの水には稲を育てるための養分がたくさん  
 入っています。だから、ぼくの家の田  
 んぼも北極大塚と荒上川の栄養がいっぱい入  
 っています。祖父は田植えの後は朝夕毎日  
 のように田んぼの見回りをして、田の水の調  
 節をしています。それは、曇りや大雨、霜  
 などから稲を守る仕事です。たまたま、台  
 風が来ると稲が倒れることがあります。父と  
 祖父は稲が倒れたら、たまたまは風が吹くほど  
 には天候にも強いです。たまたま、稲を  
 作るためには、稲の成長状態に合わせて適切な管理を

穂の肥料をあたるように工夫している  
 そうです。長年の経験による判断が必要にな  
 るそうです。祖父は農業を愛するに作るモチ  
 ベーションが違います。農業を愛するに  
 なる可能性はほとんどありません。それでも  
 有機米作り挑戦する祖父はぼくの自慢です。  
 祖父に話を聞いて、米作りは決して簡単で  
 はなく、頭と体も使う大変な仕事だとい  
 うことがわかりました。米を作る農家にと  
 て稲  
 を育てるといふことは、失敗の許されない真  
 剣勝負です。だから、今日も祖父と父は一生  
 けん命汗を流して、秋にたくさん稲がやぐら  
 を実らせるためにがんばっています。そんな  
 祖父と父をぼくはかっこいいと思います。そ  
 うして、ぼくも祖父の家でも稲作りが始め  
 られます。今年も祖父と父と一緒に稲を  
 育てたいと思います。今年も祖父と父と  
 一緒に稲作りを頑張りたいと思います。

